

介護老人保健施設しおさい

リハビリテーション部門 半田則正

功 績 施設内の車椅子・歩行補助具備品の点検と修理に率先して取り組み、同時に器材の管理・修理の部門間の協力体制をつくった。その結果、利用者が適正に整備された器材で安全に生活できるようになっただけでなく、故障で不良在庫となっていた器材が有効な備品として活用出来るようになり、修理外注や新規備品の購入費用といった経費の削減にも寄与している功績。

推 薦 者 リハビリテーション部門リーダー 杉山真由美

推 薦 理 由 毎月他部署から寄せられるサンキューレターで、しばしば半田則正OTのきめ細かい車椅子チェック・修理の取り組みに関する感謝が寄せられている。その活動は単に備品管理というだけでなく、利用者さんをリハビリテーションの立場からトータルに支援していくという実践であり、表彰に値すると考える。

内 容

2020年6月に作業療法士としてしおさいに入職した当初から、一人一人の利用者さんの機能・生活活動の評価をきめ細かく行ない、適正な歩行補助具や車いすの選択をおこなうと同時に、利用者さんの車椅子のブレーキやタイヤの状態に常に気を配り、少しでも問題があれば工具箱を抱えて駆けつけて調整や修理を日常的に迅速に行っています。

入職後より「安全安心を第一に利用者さんに適した用具の提供を実践する」ことを挑戦目標に立て、自覚的に取り組みを継続しておりました。また、褥瘡委員会の活動を通じて、利用者さんの健康状態を保ち改善するための環境を整えるにはどうしたらいいかとの問題意識を持って施設の状況にも目を向けていました。以前は、機材の管理をおこなっていく体制が十分機能しておらず、機材管理を担当していた介護職・施設管理担当職員も苦慮していました。施設としていかに安全安心な環境を提供していくかという観点から、リハビリテーション専門職としてこれら他職種と共に、修理・調整方法の技術的助言・指導を自主的に買って出していました。

現在は廃棄機材の部品活用を含め、部品在庫を種類ごとに管理して、問題が生じた機材を外部に発注しなくとも素早く修理できるようになり、以前は使用できないまま不良在庫となっていた車椅子が活用できるようになりました。その上で、施設環境を整えるために利用者さんにとって必要な新規備品を提案して無駄なく補充することができました。

これらの取り組みは、利用者さんの生活リハビリテーションの促進、安全な施設環境の提供を多職種協働でおこなう実践であり、施設の資材を効率的に運用する点でも職員の模範となっています。